

南海トラフ広域地震防災研究 プロジェクト成果報告会

— 研究成果と今後の課題 —

今後30年以内の発生確率が70~80%とされる南海トラフ地震について、理学・工学・社会科学が連携し、防災減災対策に備えるための研究を平成25年度から実施してきました。
この報告会では今年度で終了となる7年間のトピックを紹介し、研究成果を踏まえ減災への課題について議論します。

令和2年

2月17日 月

13:00~17:30 (開場 12:00)

参加定員
250人
入場無料

登録方法：事前申込制

<http://www.jamstec.go.jp/nankai/>
事前申込が定員に満たない場合は当日参加も可能です。ウェブサイトにてご確認ください。



■プロジェクト成果 トピック紹介

- ・巨大地震発生域調査観測研究
「地震像の把握と将来の予測に向けて」
- ・地域連携減災研究
「被害軽減のため正確に被害予測し効果的な対策に繋げる」

■パネル討論

「何が分かったか？そして減災への課題は？」

■プロジェクト成果 ポスター展示

イノ カンファレンスセンター Room A

東京都千代田区内幸町 2-1-1
飯野ビルディング

- ・東京メトロ
日比谷線・千代田線「霞ヶ関」駅 C4出口直結
丸ノ内線「霞ヶ関」駅 B2出口 徒歩5分
銀座線「虎ノ門」駅 9番出口 徒歩3分
有楽町線「桜田門」駅 5番出口 徒歩10分
- ・JR山手線・京浜東北線・東海道線・横須賀線
都営地下鉄浅草線・ゆりかもめ「新橋」駅 徒歩10分
・都営地下鉄 三田線「内幸町」駅 A7出口 徒歩3分



南海トラフ広域地震防災研究プロジェクト成果報告会

・プログラム・

13:00~13:10	開会挨拶 文部科学省 研究開発局 地震・防災研究課長 工藤 雄之 香川大学 四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構 副機構長、特任教授 / 海洋研究開発機構 上席技術研究員 プロジェクト代表 金田 義行
13:10~15:10	プロジェクト成果 トピック紹介 巨大地震発生域調査観測研究 テーマ「地震像の把握と将来の予測に向けて」 <ul style="list-style-type: none">古文書が語る津波波源の多様性 – 安政東海と昭和東南海の関係 – 海洋研究開発機構 海域地震火山部門 技術研究員 今井 健太郎地質痕跡が示す多様な地震履歴 産業技術総合研究所 地質調査総合センター 研究グループ長 穴倉 正展3次元地下構造モデルの構築 – 調査観測データに基づいて – 海洋研究開発機構 海域地震火山部門 技術研究員 仲西 理子物理モデルを用いた推移予測手法開発 – 地殻変動データの同化に向けて – 海洋研究開発機構 海域地震火山部門 センター長 堀 高峰 地域連携減災研究 テーマ「被害軽減のため正確に被害予測し効果的な対策に繋げる」 <ul style="list-style-type: none">地域の現状に即した具体的な被害様相の提示 – 産業集積地にある愛知県碧南市を対象に – 名古屋大学 減災連携研究センター 教授 野田 利弘災害レジリエンス向上のための情報共有技術 防災科学技術研究所 マルチハザードリスク評価研究部門 部門長 藤原 広行
15:10~15:40	休憩・プロジェクト成果 ポスター展示
15:40~17:25	パネル討論 テーマ「何が分かったか？ そして減災への課題は？」 進行 香川大学 四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構 副機構長、特任教授 / 海洋研究開発機構 上席技術研究員 プロジェクト代表 金田 義行 パネリスト 名古屋大学 減災連携研究センター センター長、教授 福和 伸夫 海洋研究開発機構 海域地震火山部門 部門長 小平 秀一 東京大学 地震研究所 災害科学系研究部門 部門主任、教授 古村 孝志 気象庁 地震火山部長 土井 恵治 海外建設協会 研究理事 / 前内閣府政策統括官 (防災担当) 付参事官 (普及啓発・連携担当) 佐谷 説子 和歌山県 総務部 危機管理局长 酒井 清崇
17:25~17:30	閉会挨拶 南海トラフ広域地震防災研究プロジェクト運営委員会 委員長 / 九州大学大学院 理学研究院 教授 清水 洋